

細菌のホットスポットと伝達チェーンはどこにありますか？ Management&Krankenhaus より引用
2020年10月20日-Dyphox と RegensburgUniversity Hospital は、細菌の伝達連鎖を研究しています。
「PACMAN」プロジェクトは、合計150万ユーロから始まります。



Regensburg の新興企業である Dyphox は、University Hospital Regensburg(UKR)の科学スタッフと協力して研究を行っており、クリニックのホットスポットと細菌の伝播連鎖のポイントが発生します。この目的のために、PACMAN 調査の一環として150万ユーロが利用可能になります。

さらに、分速細菌検出システムが開発され、テストされます。過去数年間、University Hospital Regensburg (UKR)と Dyphox は、共同研究で Dyphox の抗菌塗料を日常的に使用することの有効性と適合性をすでに証明していました。それ以来、抗菌コーティング技術は無数の分野で使用されてきました。

1日の間に、クリニックの患者と病院スタッフの間には、両者が等しく触れる表面を介した200を超える間接的な接触があります。診療所では、これらのいわゆる混合ゾーンが病原体の拡散に大きな役割を果たします。細菌は表面上で数ヶ月生き残り、感染性を維持することができます。これらの目に見えない伝達ホットスポットは、特に多剤耐性細菌の患者にとってかなりの健康リスクを表しています。

誰もが使うのはコンピューターのキーボードなのか、それとも医療用の作業服なのか。日常的に交流しているのは患者ですか？細菌は病院でどのように伝染しますか？これらのホットスポットと対応する伝送ルートに関する科学的に正しい知識はまだ非常に限られています。それを変えるために、大学病院の科学チームは、Dyphox と Regensburg 社の PreSens と協力して、「PACMAN」プロジェクト(微生物の写真活性細胞毒性治療と新しいクイックテスト)の一環として、3年間にわたって細菌の経路を調査しています。新しいタイプのセンサーフィルムを使用してUKRの2つの集中治療室で分析し、Dyphox テクノロジーを使用してターゲットを絞った方法でスイッチをオフにします。この研究プロジェクトは、バイエルン研究財団から総額150万ユーロの資金提供を受けています。この調査から得られた新しい調査結果を、DyphoxLinkedIn アカウントで定期的に発表します。

Dyphox の CEO である XaverAuer は、次のように述べています。「過去数か月は、伝送チェーンを正確に理解し、重要なポイントに介入できることがいかに重要であることを示しています。これは特に病院環境に当てはまります。古典的な消毒プロセスに加えて、Dyphox はここで決定的な貢献をして、従業員と患者にとって臨床環境をさらに安全にし、塗抹感染による健康上のリスクを防ぐことができます。」

Dyphox の抗菌効果はフィールド調査で証明されており、コーティングはすでに UKR の緊急治療室でうまく使用されています。今、人間にとって完全に安全であるこの表面コーティング技術の効率と可能な使用法は、もう一度拡大されるべきです。

「UKR の緊急治療室での最初の臨床試験の結果に満足しています」と博士は言います。UKR の病院衛生および感染症部門の責任者であり、バイエルン州で唯一の病院衛生の大学教授職を保持している WulfSchneider 氏。「Dyphox の抗菌表面コーティングにより、治療部位への細菌負荷が大幅に減少しました。ここで、どの細菌と細菌が移動するのか、それらがどのように移動するのか、そして何よりも、抗菌コーティングを通してこの移動をどのように防ぐことができるのかを調査したいと思います。」